

Conservation of

津江杉®

平成22年4月8日 創立20周年記念式典

100年企業目指して

トライ・ウッドが目指すもの

設立以来変わらない目標

後世に残そう

かけがえのない森林(みどり)を

持続可能な森林経営の実現

経済林と
環境林(公共林)の

両立

上津江地域経済の振興

継続的な人材育成

チャンレンジ精神

経済林 と 環境林(公共林)の両立

経済林

森林施業を介して経済的な利益を得る山林

環境林(公共林)

公益的機能を維持し、生物多様性や二酸化炭素量の削減など積極的に環境に貢献する開かれた山林

トライ・ウッドが目指す林業

経済林

+

環境林(公共林)

新しい取り組み(J-VER制度)

カーボン・オフセットの概要

家庭やオフィス、移動(自動車・飛行機)での
温室効果ガス排出量を把握する



省エネ活動や環境負荷の少ない交通手段
の選択など、温室効果ガスの削減努力を行う



削減が実現困難な排出量を把握し、他の場
所で実現したクレジットの購入または他の場所
での排出削減活動を実施

J-VER

(Japan - Verified Emission Reduction)



対象となる活動の排出量と同量のクレジット
で埋め合わせ(相殺)する

J-VER制度

国内におけるプロジェクトにより実現さ
れた温室効果ガス排出削減・吸収量を
クレジットとして認証する制度

【プロジェクト】

- 木質バイオマスプロジェクト
- 廃食用油由来のバイオディーゼル
燃料の車両における利用プロジェクト
- 下水汚泥由来バイオマス固形燃料
による化石燃料代替プロジェクト
- 低温排熱回収・利用プロジェクト
- **森林吸収系プロジェクト**
 - ✓ 森林経営プロジェクト
 - 間伐促進型プロジェクト
 - 持続可能な森林経営促進型プロジェクト
 - ✓ 植林プロジェクト

新しい取り組み(J-VER制度)

間伐促進型プロジェクト

間伐による、森林成長分による炭素吸収量を計測して、クレジット化

主な注意点

平成35年3月31日までは、

1. 基本的に、人為的な土地転用を行ってはならない。
2. 不適切な主伐(プロジェクト計画に基づかない主伐や伐採後の放棄)等温室効果ガス吸収効果を消失する行為を行ってはならない。
3. 温室効果ガスの永続性を保証しなければならない。(森林施業計画の認定、森林認証の認定、継続)

J-VER制度の流れ

トライ・ウッド(CO₂クレジットの生産)
 ・間伐の実施
 ・モニタリング(成長量の実測)
 ・森林の成長量を計算・クレジット化

CO₂クレジット



現金

more trees(CO₂クレジットの流通)
 ・CO₂クレジット販売先の確保

カーボンオフセット



現金

CO₂クレジット購入企業
 ・CO₂クレジットの購入
 ・CO₂クレジットをCSR、販売促進に利用
 ・削減し切れなかったCO₂を購入したCO₂クレジットでオフセット(相殺)

目標

目標

100ha程度の施業計画面積に対して、J-VERプロジェクトを実施する

物と人を円滑に動かすための潤滑油として利用

